

# 花だより 18号

## 社会福祉法人花

＜発行:令和6年3月＞

生活介護 さい工房花はな  
共同生活援助 ホーム花  
短期入所 ショートさくら

共同生活援助 花の家 花音  
花風の家 花ひらの家  
短期入所 ショート風 咲花

〒259-1201  
神奈川県平塚市南金目346-1  
☎ 0463-50-3080  
FAX 0463-58-8797

〒259-1206  
神奈川県平塚市真田1-12-29  
☎ 0463-20-8837  
FAX 0463-20-8759

### 人間関係の形成 — 愛着にもとづく基本的信頼感

社会福祉法人花  
理事長 村上 結

#### 重症児の「自己実現」

脳性麻痺で寝たままの15歳の男の子が、日に何回もしめを取り換えてもらおう。おしめ交換の時に、その子が全力をふりしぼって腰を浮かそうとして、その努力が保母の手に伝わった。保母は、はっとして瞬間、あらためて自分の仕事の大切さに気づかされた。

「この子らを世の光に」  
糸賀一夫1961 原文まま

#### ひとへの「基本的信頼感」

特別支援学校学習指導要領解説・自立活動6区分の一つに「人間関係の形成」があります。そこには「人間関係の形成は愛着にもとづく人間関係の基本的信頼感から始まる」と記されています。支援者が提供するプロセスとしての愛着には、「やさしい言葉かけ」「ぬくもり」「あたたかさ」「美味しい食事」「心地よい生活（入浴・排泄・睡眠・運動の健康衛生面）」そして余暇働きかけが考えられます。

この基本的信頼感への愛着プロセス（快へのプロセス）は200回から300回を越える長い年月の働きかけが必要と言われ、わたしは、子どもが生まれてから3歳まで、100日以上続く授乳・食事、沐浴・入浴、おむつ交換、安眠、そして楽しい時間を共有するプロセスをイメージします。当然、「愛と快」のみに満たされた「LIFE」は、この人間関係形成への働きかけの中で、ひとは「がまん」や「折り合い」を学び成長し、生きることに学んで成長します。

#### 「他者への痛覚」「社会的感受性」

福祉、医療、そして教育、ひとに深く関わる職業においてこの二つは大切な基本的資質です。しかし抽象的で、言葉として分かっている自分葉としての日々の実践に、上げることは容易ではありません。県立二俣川看護福祉高校に勤務していた頃、基礎看護・患者とのコミュニケーション「傾聴」という授業を見る機会がありました。それは傾聴の型から看護師という職業の本質へとつながる授業です。始まる座位置、姿勢、距離、評価的な態度をとらず、

ねいな言葉づかいで相手（患者）の話に耳を傾ける。型を学ぶ中で、看護師は医師の力のおよばない患者にも最期まで寄り添い続けることを誇りとする職業であるという本質を指す授業でした。「やさしい言葉かけ」「ぬくもり」「あたたかさ」「美味しい食事」「心地よい生活（入浴・排泄・睡眠・運動の健康衛生面）」そして余暇。働きかけを繰り返す中で化学変化が生じ、わたしたちの職業の本質「生きるを支え・暮らしを支え・ともに生きる（相互尊重と共生）」に近づけるのだと思えます。

#### 障害は「人間関係の形成」を妨げない

四肢麻痺を有する生徒の作文

もしも神さまがわたしの手を自由に動かせるプレゼントをくれたらわたしは三つのことがしたいです。一つめはお母さんの肩を、二つめはお父さんのいる仏壇に手を合わせお祈りをしたい。三つめはお母さんと一緒にまん丸なおにぎりを一緒にピクニックに行きたい。だからどうか神さま、わたしの手を一日だけ自由に動かせるようにしてください。